



がきり  
み

# 七匹の子山羊

及川 ふみ

楽しい夏の休みもすぎました。しばらくの間は可愛らしい幼児の事も忘れてしまふほどすつかり幼稚園のことから遠ざかつておりました。新しい學期がはじまると幼稚園の何もかもが新しいもの、珍らしいものゝ様に思はれる事でせう。秋風爽やかなこのよい季節に新鮮な氣持で思ふ存分遊びたいものです。

七匹の子山羊のお話は面白い。幼児に聽かせるお話の中の「羊と狼」のお話です。



或る所に、お母さんの山羊と可愛らしい子山羊が七匹居りました。或時お母さんは子供の山羊に「お母さんはこれからお前達のお馳走を買ひに行

つて来るから皆仲よくしてお留守をしてゐらつしやい、もしかするとあの悪い狼がお母さんの眞似をしてお前達食べに来るかもしれないからよく氣をつけてゐらつしやい。狼の聲はお母さんの聲の様に優しくなくて太くて、きたなくて、こわい聲ですよ。それに毛の色が眞黒だし戸を叩くのも亂暴なのだから氣をつけて居るとよくわかりますよ。よく戸をしめて氣をつけてゐらつしやい。「えゝわかりました。行つていらつしやい」子山羊たちはみんなで仲よくして鬼ごつこをしたり、駈つこをしたり大さわぎで遊んで居りました。間もなくドンドン、戸をたたいて、「お母さんが今歸つたよ。おあけなさい。」あゝお母さんのおか

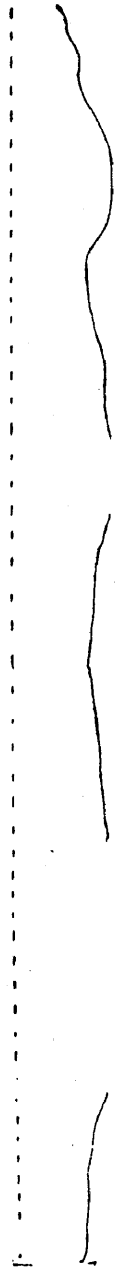
へりだ、うれしいうれしい」と小さい羊が戸をあけやうとしたら見さんの山羊がこれを止めて「おまちなさいおまちなさい、あれはちがひますよ」また ドンドン「お母さんだよ、早くあけて下さい」見さんの山羊は「お母さんの聲はそんなきたない聲ぢやありませんよ、そんなに、ドンドン 戸なんかたゞきませんよ」狼は「これはしくじつたどうしたものだらう。よし／＼薬屋へいつて一つの聲のよくなる薬をのんでこやう」と大急ぎで薬屋へいつて聲のよくなる薬を買つて飲みました。そして又大急ぎで山羊のお家の前に参りました。今度は氣をつけて ドンドン「お母さんが今歸つたよ、早くあけて頂戴な」と小さい山羊がまた止めて「おまちなさい、聲は似てゐるけれどもうちの母さんの毛の色はそんなに黒くありませんよ」

狼は「おや／＼利口な山羊たちだこと、またし

くじつた、どれ／＼、一つの粉屋にでも行つて毛を白くしませう」と大急ぎで粉屋へまゐりました。そこで頼んで、身體中に粉をふつてもらひました。「これで安心だ、眞白になつた。今度こそは」と狼は山羊のお家へまゐりました。

トントン「お母さんが今歸つたよ、早くあけて下さい。山羊たちは「今度こそは、聲もやさしい毛の色も眞白だ」と云つて喜んで戸をあけましたら大變です。こわい／＼さつきの狼がウーと云つてとびこみました。そして逃げまはる山羊の子供をバクリバクリとみんなのんでしまひました。たつた一匹 時計のかげに、小さくなつてかくれて居るの丈けは探しても見つからなかつたものと見えて「おゝ甘しかつた。とうとう、みんな食べてしまつた」と云つてのそりのそりと出て行つてしまひました。

残つた一匹の子山羊は、こわくてこわくてぶるぶるふるへて居りますと今度はほんとお母さん



木 嶽

木

木

木

木

木

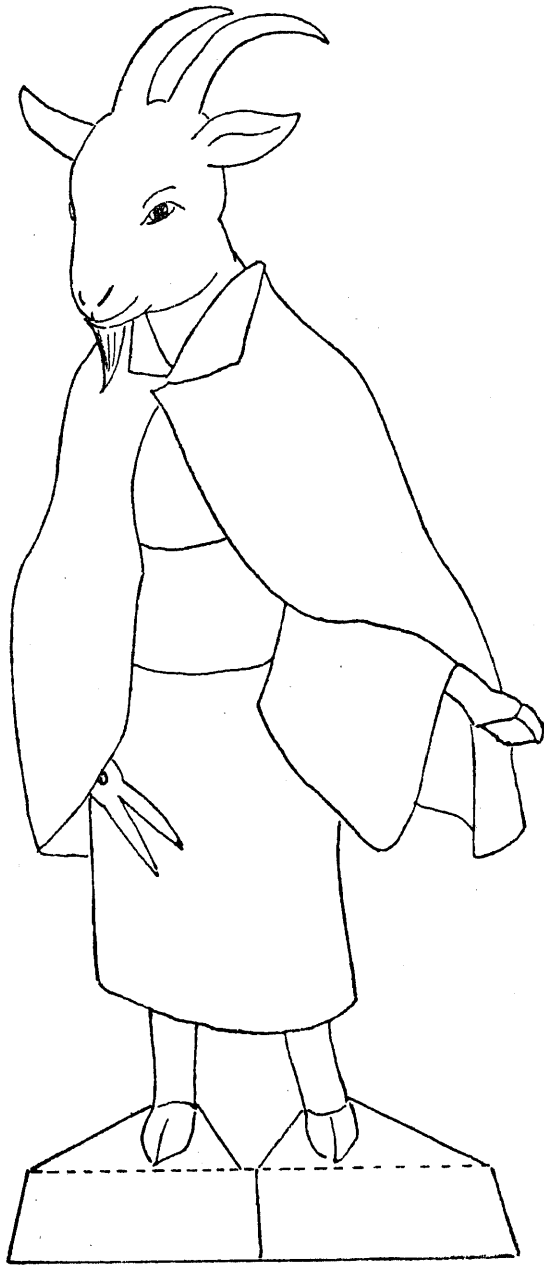
羊山子一匹

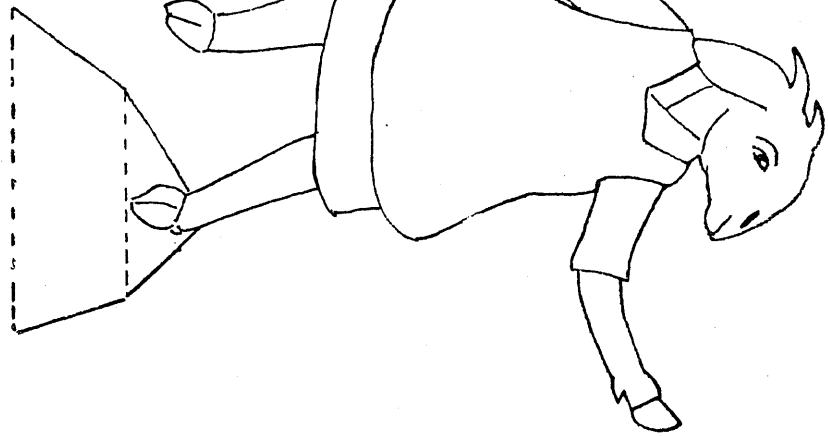
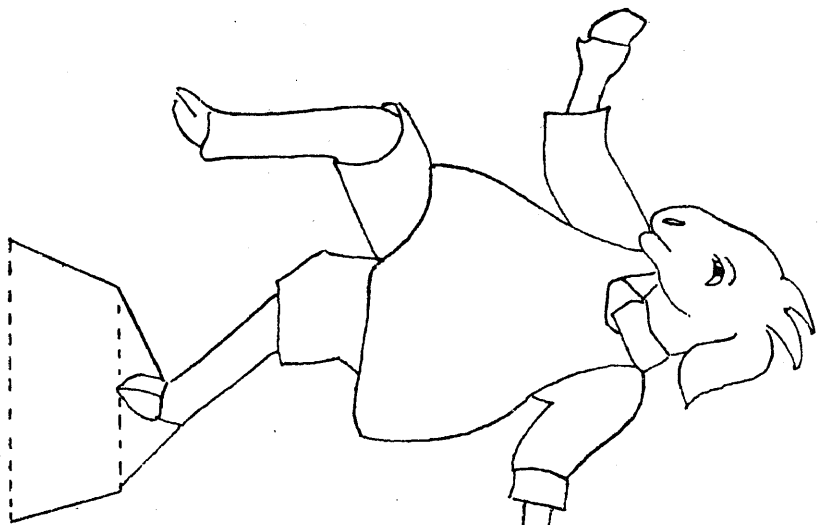
羊山親

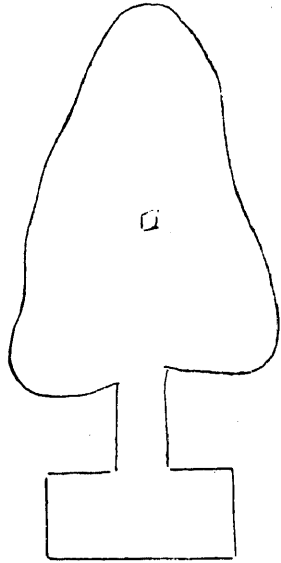
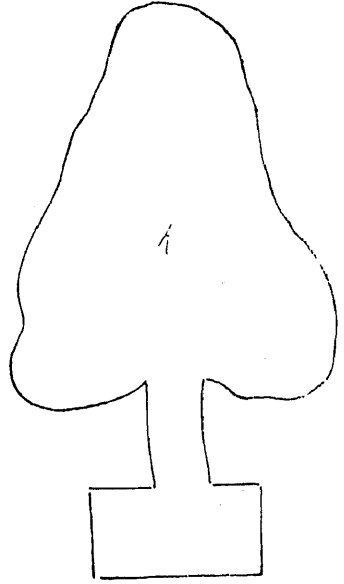
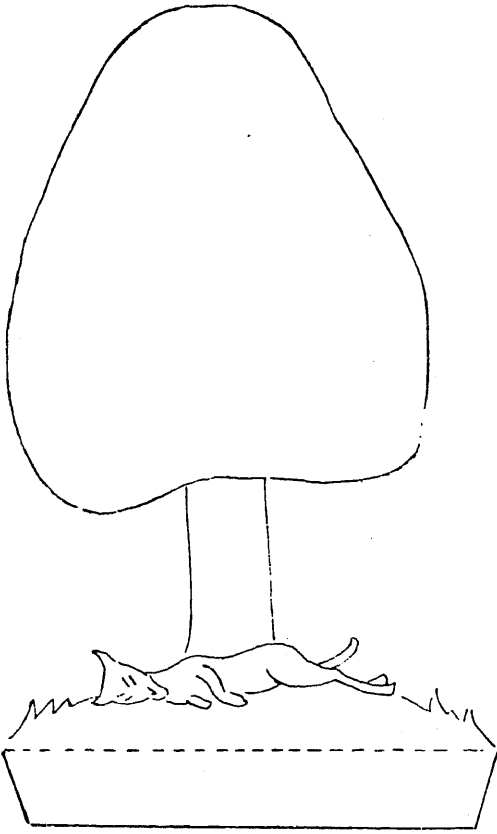
羊山子一匹

羊山子一匹

羊山子一匹







が

「今歸つた、ちや！ 戸があいてゐる、誰もいない、さあ大變」と叫びました。時計の蔭にゐる子山羊がとび出して「お母さん」ととびつきました。「ちやちや一體どうしたの」「お母さん　こわかつた。みんな食べられてしまつた」「たべられてしまつたつてたべたその狼はどちらへ行つた早く早く」

二匹は家をとび出しました。走つて向ふの方へいつて見ますと、狼は大きな腹をして木の下でねむつて居りました。「あそこに居る、早く鉄鋏をうちから鉄をもつてきて、狼のねてゐる側にそつと參りました。そしてお腹にさはつて見ると山羊の子供がうごいて居るのがわかります。お母さんの山羊はそつとお腹の皮をはさみで剪りましたら、のまれた山羊の子供達がビヨビヨビヨいと飛び出しました。そして「お母さん」と云つてとびつきました。お母さんは、大變喜んで、狼が目を覺さない中にと急いでおうちへ歸りました。

◇

このお話のうちのめでたくお母さん山羊が七匹の子供をつれてお家へ歸るところです。

お母さん山羊　一枚

子山羊が二匹手をつないでゐるのが　三枚

右向きの子供山羊が一匹　一枚

狼のねてゐる木が　一本

イロの印のある木が交せて五本。

これだけが一組になつてゐます。それ／＼謄寫版にすつたものを幼児の好む色にぬらせます。ぬつた後にさりぬかせて臺紙に適當にはらせます。

畫用紙四ツ切大の臺紙に背景を簡單にかかせて森の線をさらせて點線のところより折ります。共同作業としてぬる人、きる人、背景を畫く人と數人がよつて作るのも一つの方法でありますし、今日はぬる丈、明日は切るだけ、その次の日は背景を畫いてはりつけるといふ様に一人の幼児がつけ仕事をして面白いでせう。